

2019年度萩博物館展示案内

2019

5月

<春> 企画展

萩の夏みかん物語Ⅰ

5月18日(土)～6月11日(火)

世界文化遺産の資産のひとつ萩城下町では、今も夏みかんが栽培されています。萩の夏みかんは、明治維新の後、禄を失った武士の救済のために、武家屋敷地を利用して栽培が始まりました。高値で取引が続き、結果として、畑となった屋敷地が周囲の土壌などとともなうに今に伝えられました。夏みかんに関わる様々な物語を紹介し、関連の行事を開催します。



夏みかん出荷ラベル

6月12日(水)～14日(金)休館

<夏> 特別展

危険生物大迷宮

6月29日(土)～9月1日(日)

ライオンやコブラなど、地球上には鋭いキバや猛毒を持った生きものが生息し、ここ萩でも毎年のようにクマやスズメバチが目撃されています。これらの危険生物に加え、山口県初公開のハイブリッド生物「レオポン」や猛獣「ウルバリン」などをはじめとする剥製・標本・写真100点以上を大公開!危険生物たちが待つ迷宮のような展示室を探検する、夏休みのファミリー向け展示です。



猛獣「ウンビョウ」の剥製

6月

7月

8月

9月

<秋1> 企画展

萩の鉄道物語り

9月14日(土)～10月20日(日)

萩の鉄道は、世界文化遺産の資産のひとつ萩城下町を迂回して敷設されました。このことは、結果として、萩城下町を大きな改変から守りました。鉄道開通を機に、萩市では観光立市への取り組みも開始されました。市内各地の鉄道に関わる物語を紹介し、関連の行事を開催します。



山陰本線を走る列車

10月

11月

<秋2> 創建300年記念特別展

長州藩校 明倫館 — 武士たちの学び舎 —

11月9日(土)～2020年1月5日(日)

2019年は、長州藩の藩校明倫館創建から300年を迎える記念の年です。享保4年(1719)に開校した藩校明倫館は、嘉永2年(1849)の移転・拡充を経て、明治初期まで存続しました。江戸時代を通じて多くの人材を輩出した明倫館。その歴史を、現在に伝えられた資料を通して紹介します。



扁額「明倫館」(享保4年製)

2020

1月

<冬> 企画展

萩の夏みかん物語Ⅱ

2020年1月18日(土)
～2020年3月31日(火)

萩の夏みかんに関わる様々な物語を紹介する展示の第2弾です。



果実問屋の引札(明治期)

2月

3月

2020年1月22日(水)～24日(金)休館

※展示開催期間中、常設展示改変のため1か月程度臨時休館(予定)

※画像は全てイメージです。展示物は変更される場合があります。

いきもの発見ギャラリー

萩の広大な海と大地にすむ鳥・昆虫・魚・貝などの標本約4千種類・2万点以上がギッシリ!昭和初期の博物学者・田中市郎(1877-1946)が集め、萩の歴代の博物館の礎となった標本も公開。標本に親しみ、調べ、さらなる探求の拠点となる萩で唯一の「ヴァンダーカンマー」(驚異の博物陳列室)です。



「ザ・シェリング・バー」で好きな貝を探そう!
(時期により休止の場合あり)

休館日情報

2019年6月12日(水)~14日(金)

2020年1月22日(水)~24日(金)

2020年1月~3月のうち1か月程度、常設展改変のため臨時休館予定
(詳細は萩博物館HPに掲載予定)

萩市内の関連施設

須佐歴史民俗資料館「みこと館」

企画展「萩藩永代家老益田家を支えた家臣たち」

4月下旬~ 須佐・田万川地域には、萩藩の北の鎮めとして配置された益田家家臣に連なる人たちが、明治維新の後も住み続けています。

その家臣団に伝わった史料をもとに、萩藩永代家老益田家と益田家を支えた家臣たちの深い関わりを明らかにします。

10月上旬~ 企画展「雲谷派 益田家お抱え 絵師たち」を開催予定。



〒759-3411 山口県萩市大字須佐4441番地10
TEL 08387-6-3916 FAX 08387-6-2030

阿武川歴史民俗資料館

常設展示 テーマ展「湖底のふるさと」

〒758-0141 山口県萩市川上小市ヶ谷 TEL 0838-54-2024

萩博物館

〒758-0057 山口県萩市大字堀内355番地
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
TEL:0838-25-6447 FAX:0838-25-3142
URL:www.city.hagi.lg.jp/hagihaku/
https://twitter.com/NRPa8flcbr9B7qJ
E-mail:muse@city.hagi.lg.jp

